

目指す学校像	みんなの笑顔が輝く学校「ス(進んで学ぶ等)マ(まっすぐな心等)イ(一生懸命等)ル(ルールを守る等)みなみ」
--------	---

重点目標	1 効果的にICTを活用した「学びの自律化」「個別最適化の学び」の実現 2 安心・安全な学校を目指す組織的な対応の強化と安心・安全で豊かな心を育む教育環境の整備 3 150周年式典及びコミュニティ・スクールの円滑な実施と信頼される学校づくり 4 教職員一人ひとりのよさを発揮できる職場づくりと働き方改革の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 7 年 2 月 1 3 日				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 運 営 協 議 会 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○授業におけるICTを活用する機会が増え、一人一台端末を積極的に活用して学びに向かう児童が多い。 <課題> ○昨年度の全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の思考力・判断力・表現力等の「書くこと」「読むこと」について、算数の思考力・判断力・表現力等についての記述式の問題に課題がある。 ○高学年になるにつれて習熟度の二極化が見られる教科(国語・算数)がある。	学びの自律化を目指したICTの活用と授業改善 ①全国学力・学習状況調査結果等を分析し、効果的な手立てを設定する。 ②毎週金曜日に「基礎学力パワーアップタイム」を実施し、スタディサプリ、ドリルパーク等を活用することを通して、児童が学習履歴を確認し、学習計画を設定したり修正したりする。	①一人一台タブレットの活用について研修を実施し、授業改善を行うとともに、授業参観等で公開する。 ④学校課題研修において、「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」を意識した授業づくりを実践する。	①学校評価「学習指導」「授業が分かりやすい」の項目を9割以上とすることができたか。 ②「基礎学力パワーアップタイム」にて児童が学習履歴を確認し、学習計画を設定したり修正したりすることができたか。	①全国学力・学習状況調査等の結果を受け、学力向上学校カウンセリング訪問を通して、本校児童の課題を見出し、学年で共通理解をして、授業改善に取り組むことができた。 ・「学習指導」「授業が分かりやすい」の項目：児童93%、保護者92% ②「基礎学力パワーアップタイム」において、スタディサプリやドリルパークを活用した基礎的な反復・習熟として、自分に最適な学習内容に取り組むことができた。	B	・授業における個別最適化の学習方法の選択肢としてタブレットを活用した展開例の研究を進めていく。 ・「基礎学力パワーアップタイム」を教育課程に位置付けるとともに、指導のポイントや重点単元を絞って、指導の充実を図っていく。	・家庭のタブレットを活用して、スタディサプリ、ドリルパーク等に取り組むことができていく。タブレットで宿題を行うこともあり、これまでとは違う学習ができるようになったと実感している。 ・一人ひとりに合わせた場づくり、居場所の工夫、指導の方法、学年内の交換授業など様々な取組をしていることが分かった。引き続き、子どもたちのよいところを伸ばす教育を行ってほしい。 ・幼小小が連携した「なかよし会」等の取組を通して、児童の成長を見ることができた。
2	<現状> ○昨年度の学校自己評価に係るアンケートにおける「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目で、肯定的な評価が保護者等・教職員ともに9割を超えた。 <課題> ○「その日のことはその日のうちに」を合言葉に引き続き全教職員が共通理解のもとで「報告・連絡・相談・見届け」を丁寧、迅速に行う必要がある。 ○屋上の防水、経年劣化による故障等が随所に見られ、その都度対応をしている。	児童一人ひとりに寄り添った教育支援・教育相談体制の充実 ①児童向けの「心と生活のアンケート面談」と「スマイル月間(本校独自の個人面談)」を学期に1回ずつ実施したり、保護者向けの教育相談日を毎月設定したりし、児童が安心して生活できるようにする。 ②「心のサポート週報」による情報の共有や蓄積など、課題のある児童の情報を共有し、共通理解・共通行動を行う。	③事務職員と予算状況確認を毎月1回以上実施し、予算の適正執行を実現する。 ④安全点検を確実に行うとともに、事故を未然に防げるように、教職員の危機意識の向上に努める。	①学校自己評価に係るアンケートにおける「学校に行くのを楽しみにしている」「友達と仲よくしている」の項目で、児童の肯定的な評価が9割を超えたか。 ②学校自己評価に係るアンケートにおける「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目で、肯定的な評価が保護者・教職員ともに9割を超えたか。	①生徒指導主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーター等の主任を中心として学校全体で対応することができた。「スマイル月間」の児童面談を通して情報共有が必要な児童について迅速に情報共有をし、対応することができた。 ・学校自己評価アンケート「学校に行くのを楽しみにしている」「友達と仲よくしている」：AB評価92% ②「心のサポート週報」を活用して学校全体で情報を共有し、対応することができた。よい行い等についても全体共有することができた。 ・「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目：AB評価86%	B	・「その日のことはその日のうちに」を合言葉に報告、連絡、相談、見届けの徹底と学年内の連携について繰り返し助言してきた。しかし、学年や教職員による意識の差がまだ見られるため、今後も事例研修等を取り入れながら教員の危機意識向上を図っていく。 ・Solaの一むにおいて、児童一人ひとりの実態に応じてきめ細かな個別の支援、個別指導を行っていく。	・学校は「いじめ」については「友だちどうしのトラブル」ではなく、法に照らし合わせて、丁寧に対応をしていることがわかった。子どもたちが笑顔で過ごすことができるよう、見守ってきたい。 ・教職員がチームとなって安心安全な学校となるよう、対応をしてきていることを知ることができた。
3	<現状> ○11月22日に行われる150周年記念式典に向け、昨年度から150周年記念事業実行委員会を中心に計画的に準備をしている。 <課題> ○昨年度の学校評価に係るアンケート「情報発信」「地域・保護者の願いに応えている」の項目で肯定的な評価が9割に届かなかった。 ○昨年度共有した目指す児童の姿「チャレンジする心」を、家庭、地域などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童の育てたい力についてさらに熟識し、その実現に向けた方策を定め、継続的に行動する。	児童・保護者・地域が一体となった150周年記念事業の実施 「スマイルみなみ」を地域全体で共有するための積極的な教育活動の公開 ②月に1回以上学校ホームページの更新、学校ブログによる教育活動の紹介、学校だよりや安心メールによる保護者・地域への情報提供をする。 ③学校運営協議会委員が本校の課題を自分事として意識できるようにするための熟識を実施し、「あいさつチャレンジデー」「あいさつキャンペーン」等を実施する。	①150周年を記念した行事の実施に向け、学校・保護者・地域が連携をし、11月22日の記念式典までの関連行事を計画的に実施する。	①児童が主体的に150周年関連行事に参加することができるとともに、学校評価において、開かれた学校づくりに関する項目で9割以上の肯定的な回答を得られたか。	①150周年式典記念事業実行委員と連携をとり、11月22日に150周年式典・音楽会を開催することができた。児童一人ひとりが自分事として150周年をお祝いすることができた。 ・学校評価「開かれた学校づくり」：AB評価86%	B	・さらなる「開かれた学校づくり」を目指し、授業参観、学校公開に加えて、各学年が実施する外部講師による授業(交通安全教室、鍵盤ハーモニカ教室、防犯教室、薬物乱用防止教室、インターネット安全教室等)を積極的に公開していく。	・「あいさつチャレンジデー」はとてもよい取組である。保護者の方の参加が増えるとともにさらにより取組になると思う。今後は子ども会等にも協力をしてもらい、継続して行うことができるとよい。 ・150周年記念式典・音楽会では子どもたち一人ひとりが「南小」を思い、150周年を祝うことができていた。学校・保護者・地域が協力することができた事業であった。
4	<現状> ○時間外在校等時間に個人差があり、学校業務の負担感や多忙感が教職員に見られる。 ○5、6年生における教科担任制により、担当教科の専門性の高い教材研究を行うことができていく。 <課題> ○全教職員が人事評価に基づき、自身の設定した目標に向けて指導力向上に向けた研修を実施していく必要がある。	学校業務の改善と教職員一人ひとりのよさを伸ばす働き方改革の推進 ①エバンジェリスト等を中心に校務用端末を効果的に活用するなどして校務のICT化による業務改善を推進する。 ②学年ごとに月2回のノー残業デーを設定し、定時に退勤できるようにする。 ③自身の設定した目標に向け、計画的に自己研鑽に取り組むことがようにする。	①エバンジェリスト等を中心に校務用端末を効果的に活用するなどして校務のICT化による業務改善を推進する。 ②学年ごとに月2回のノー残業デーを設定し、見える化、声掛けを実施し、教職員の時間外在校等時間を月45時間以内とすることができたか。 ③自身の設定した目標に向けて指導力向上に向けた研修を実施することができたか。	①学校評価(教職員用)「働き方改革」の項目でAB評価が9割以上の肯定的な回答が得られたか。 ②学年ごとに月2回以上のノー残業デーを設定し、見える化、声掛けを実施し、教職員の時間外在校等時間を月45時間以内とすることができたか。	①「働き方改革」の見える化を図るために、校務のICT化を図るとともに、作成、配付する文書の精選、チラシ等の配付物の精選、ホームページへの掲載、スクリレの導入を行った。 ・学校評価(教職員用)「働き方改革」の項目：AB評価93% ②学年ごとに月2回のノー残業デーを設定し提示退勤ができる日をつくることができた。 ・教職員の時間外在校等時間：年間平均35時間/月	A	・「働きがいのある職場」を教職員一人ひとりが主体的に作っていくことができるよう、学年主任、校務分掌主任等がリーダーシップを取り、業務を行うことができるようにする。 ・教職員も児童も毎日の学校生活を落ち着いてスタートすることができるよう、教職員の勤務時間を変更し、日課表にゆとりをもたせる。	・学校運営協議会の委員であることで、学校や児童の様子、教職員の方がきめ細かく対応してくれていることを知ることができていく。 ・スクリレの導入により、学校からの文書がアプリで届くようになり、確実に目を通すことができた。

